

沖縄のジャーナリストとして現代沖縄の歴史を間近で目撃した著者が編む

激動の沖縄のリアルを伝える 圧倒的な通史!!

MIKI Takeshi
三木健

2024年
12月新刊!!



A5判/上製/総520頁
定価6,820円

(本体6,200円+税10%)

ISBN 978-4-8350-8832-7 C0021

本書の特色

- ジャーナリスト・元琉球新報記者、三木健が50年以上にわたり取材・執筆した記事から全41編を収録。
- 1960年代の沖縄返還交渉から、2010年代の「オール沖縄」や八重山教科書問題までを取り上げ、沖縄の現代史を網羅。
- 元新聞記者ならではの、そこにいた者にしかしか知り得ない「現場」の様子が記された記事の数々。
- 巻末に沖縄・八重山・三木に関する詳細な年表を収録。

本書収録内容

- I 辺境から見えるもの
- II 施政権返還と沖縄
- III 米軍基地をめぐる攻防——大田県政から「オール沖縄」へ
- IV 沖縄ジャーナリズムの旗手として——偏向報道批判に抗して
- V リゾートブームへの警鐘
- VI 教育の自治とは何か——二つの教科書問題をめぐって
- VII 八重山研究への視座
- VIII 民衆史を掘る——西表炭坑

長い「戦後」に終止符を打ち、「新たな戦前」へと向かう現状にどう立ち向かうべきか。故郷は戦後八〇年を経て、いま重大な岐路を迎えている。「序文 この道はいつかきた道——南の島からみえるものは」より

沖縄返還交渉から「オール沖縄」まで

沖縄・八重山五十年史

不二出版

〒112-0005 東京都文京区水道2-10-10 TEL 03(5981)6704 FAX 03(5981)6705
<https://www.fujishuppan.co.jp> Email:administrator@fujishuppan.co.jp

本書目次

序文 この道はいつか来た道——南の島から見えるものは

I 辺境から見えるもの

「辺境」から見えるもの——沖繩の新聞記者として

II 施政権返還と沖繩

- ・ 沖繩返還交渉取材の頃
- ・ 『ドキュメント沖繩返還交渉』抄録
- ・ 施政権の壁に挑む——沖繩違憲訴訟の軌跡
- ・ 沖繩の復帰とは何か——民衆不在の領土返還
- ・ 幻の賠償請求書——つぐなわれぬ沖繩の傷あと
- ・ 国益か県益か——沖繩返還と振興開発の課題
- ・ 世替わりの過渡期で——復帰七年目の現状
- ・ 押し寄せる本土化の波——復帰一五年沖繩の素顔
- ・ 沖繩経済の抱えるもの——日本の「ゆたかさ」と地域の実態
- ・ 沖繩——きのう・きょう・あす——万国津梁の邦と国際化

III 米軍基地をめぐる攻防

——大田県政から「オール沖繩」へ

- ・ 沖繩の記憶——湾岸戦争と沖繩
- ・ 沖繩からの異議申し立て
 - 「代理署名」拒否が提起したものと
- ・ 大田知事はなぜ「代行」応諾を決断したか
- ・ 沖繩米軍用地特別措置法の改正と民主主義
 - 戦前の翼賛政治に逆戻り
- ・ 重圧続く米軍基地——記者からみた沖繩の三〇年
- ・ 約四〇年、何も変わっていない——基地集中の真の原因
- ・ 「オール沖繩」と県知事選挙——翁長知事誕生の背景
- ・ 求められる思考の転換——構造化する基地差別
- ・ 戦後七〇年——問われる「本土復帰」

IV 沖繩ジャーナリズムの旗手として

——偏向報道批判に抗して

- ・ 沖繩の五〇年とこれからの報道——地域と世界を結んで
- ・ 沖繩の主体性を守る砦——歴史の転換点で言論の使命果たす
- ・ 憲法記念日にあたって
 - 県民世論とともに歩む、偏向報道批判にこたえる
- ・ 沖繩の新聞は偏向か

V リゾートブームへの警鐘

- ・ リゾート・ブームの裏表——真夏の沖繩から
- ・ 沖繩のリゾート開発
 - 本土企業の土地買収と地元の新たな動向
- ・ リゾートに揺れる沖繩の離島

VI 教育の自治とは何か

——二つの教科書問題をめぐって

- ・ 文科省の「強権発動」の意味するもの
 - 八重山の教科書問題への視点
- ・ 八重山教科書問題と政治介入
 - 前川喜平著『面従腹背』に見る
 - ・ 忍びよる歴史修正主義
 - 石垣市教委副読本中止の背景と問題点

VII 八重山研究への視座

- ・ シマの復権をめざして
- ・ 八重山近代史への視点
- ・ 明治政府と辺境政策——山県有朋の八重山巡視を中心に
- ・ 「電信屋」の歴史的考察
 - 明治期沖繩—台湾間の海底電線敷設問題
- ・ 近代八重山とマラリア——撲滅政策を中心として
- ・ 極秘の「西表島癩村」構想
 - 暴露された光田健輔の隠密行動
- ・ 八重山民衆史の道標——地域史づくりの胎動

VIII 民衆史を掘る——西表炭坑

- ・ 八重山近代史と西表炭坑——民衆史の構築を求めて
- ・ 草莽の民衆史・西表炭坑
- ・ 「萬骨」の歴史顕彰を
 - 西表・宇多良炭鉱跡の「近代化産業遺産群」認定に思う
- ・ 琉球弧の宝庫・西表島——自然と開発との相克
- ・ 三木健著『沖繩・八重山五十年史——沖繩返還交渉から
- ・ 「オール沖繩」まで』解題（我部政男）
- ・ あとがき
- ・ 沖繩・八重山・三木健関連年表（河原千春）

著者紹介

「辺境」で生まれた反骨のジャーナリスト
三木健（みき・たけし）

ジャーナリスト・元琉球新報記者。一九四〇年、沖繩諸島でも西端に近い石垣島に生まれ、明治大学を卒業。琉球新報に入社。東京支社の記者として、沖繩返還交渉を最前線で取材する。本社に異動後は編集局長、常務取締役を歴任。そのかたわら、郷里・八重山の歴史を発掘。とくに西表炭坑について、存命だった当事者への聞き取り調査を行い、その実態を明らかにした。

主著に『ドキュメント沖繩返還交渉』（日本経済評論社、二〇〇〇年）、『八重山近代民衆史』（三二書房、一九八〇年）、『聞書・西表炭坑』（三二書房、一九八二年）など。

冊 不二出版 ● 発行 三木健 ● 著

沖繩・八重山五十年史

沖繩返還交渉から「オール沖繩」まで

定価六、八二〇円（本体六、一〇〇円＋税10%）

ISBN 978-4-8350-8832-7

注文カード

帖合・貴店名

注文数

お名前

電話番号

注文日 年 月